

石狩町植生概況調査報告書

(平成7年度)

石狩町

石狩町緑化推進協議会

調査員 阿部義孝 瀬野一郎 松崎幸恵 与那覇毛卜子

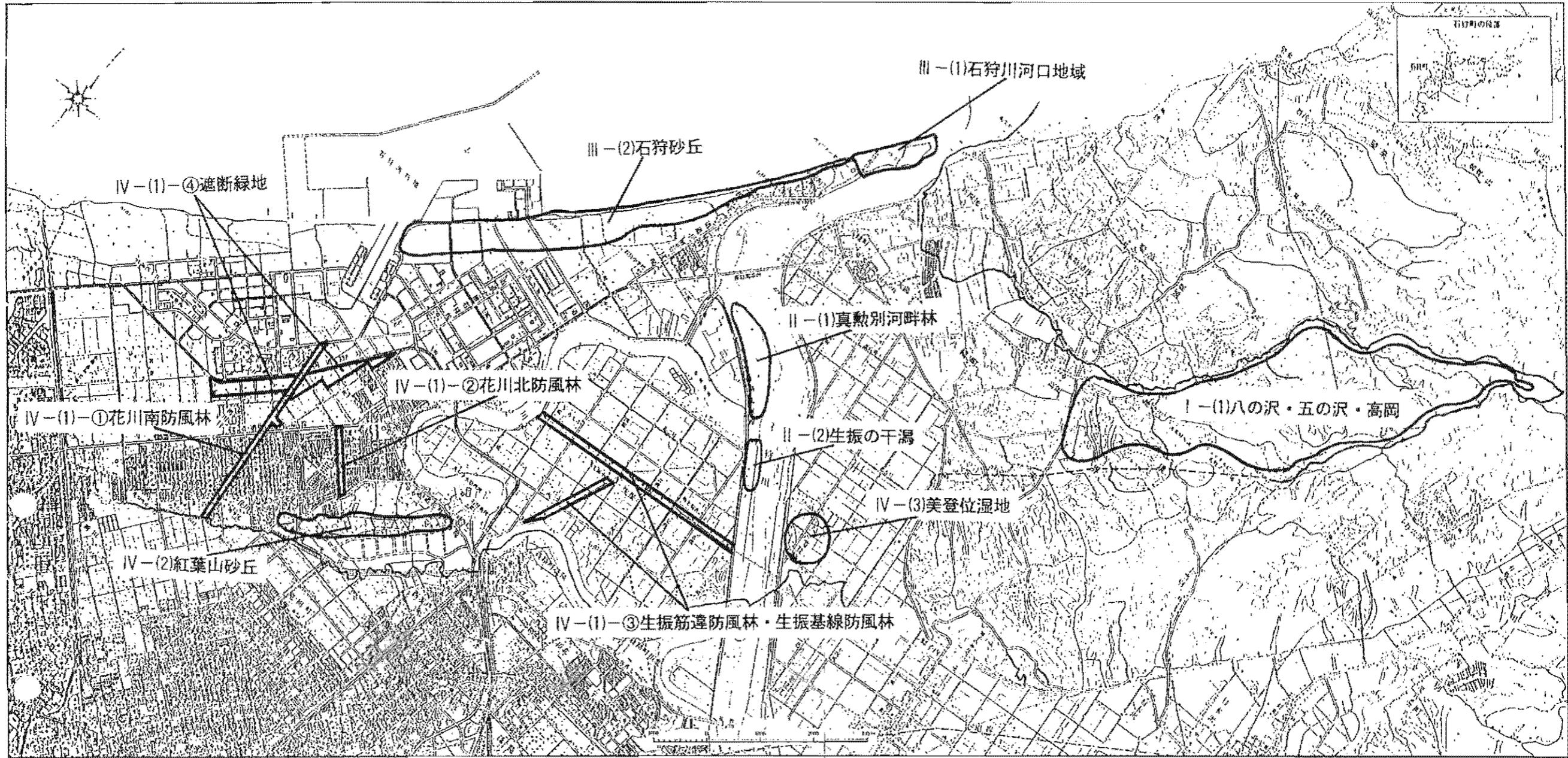
目 次

写真掲載リスト

植生概況調査区域図	1
石狩町の植物	2
I 丘陵地の植物	2
(1)八の沢・五の沢・高岡	2
II 石狩川河畔の植物	5
(1)真勲別河畔林 (マクンベツ湿原)	5
(2)生振の干潟	8
III 海岸の植物	11
(1)石狩川河口地域	11
(2)石狩砂丘	16
IV 内陸部の植物	19
(1)防風林	19
①花川南防風林	19
②花川北防風林	23
③生振筋違防風林・生振基線防風林	27
④遮断緑地	31
(2)紅葉山砂丘	34
(3)美登位湿地	37
(4)住宅地の植物	40

I - (1) 八の沢・五の沢・高岡	4
フタジュソウ、ネコノメソウ、ヒトリシズカ、アズマイチゲ、 ノビネチドリ、オオカメノキ、ハイイヌガヤ、ヒメイチゲ、 エゾノリュウキンカ	
II - (1) 真勲別河畔林 (マクンベツ湿原)	7
ヤナギトラノオ、ミズトクサ、ハンノキ、ミズバショウ、 ザゼンソウ、セリ、ドクゼリ、エゾミソハギ	
II - (2) 生振の干潟	10
ガマ、ミズアオイ、ヒシ、サジオモダカ、ヒメガマ、オモダカ	
III - (1) 石狩川河口地域	14
ウンラン、ハマエンドウ、モウセンゴケ、ハマヒルガオ、ハマナス、 エゾリンドウ、ハマボウフウ、イソスミレ、コウボウムギ	
III - (2) 石狩砂丘	17
アキノキリンソウ、エゾノカワラマツバ、エゾスカシユリ、 エゾカワラナデシコ、アキグミ、オカヒジキ、エゾチドリ、カシワ	
IV - (1) - ① 花川南防風林	21
ナニワズ、オオウバユリ、エゾノウワミズザクラ、キクザキイチゲ、 キハダ、オニグルミ、オオバナノエンレイソウ、アオチドリ、 マイヅルソウ、	
IV - (1) - ② 花川北防風林	25
コマユミ、マユミ、カンボク、ホオノキ、ホザキナナカマド、 クロミサンザシ、ハイイヌツゲ、サワフタギ、ケヤマウコギ	
IV - (1) - ③ 生振筋違防風林・生振基線防風林	29
カタクリ、エゾエンゴサク、サルメンエビネ、イワガラミ、 コジマエンレイソウ、オオバタチツボスミレ、ツルアジサイ、 ベニバナイチヤクソウ	
IV - (1) - ④ 遮断緑地	32
ツボスミレ、オオタチツボスミレ、キツリフネ、フッキソウ、 ツクバネソウ、ニリンソウ、オオアマドコロ、エゾキンポウゲ、 エゾフユノハナワラビ	
IV - (2) 紅葉山砂丘	35
ノブドウ、クゲヌマラン、ハンゴンソウ、クルマユリ、クマイチゴ、 エゾスズラン、アズキナシ、ウメガサソウ	
IV - (3) 美登位湿地	38
クサレダマ、ナガボノシロワレモコウ、ノハナショウブ、ヤナギラン、 ノリウツギ、オトギリソウ、サワシロギク、サワギキョウ	
IV - (4) 住宅地の植物	41
フランスギク、セイヨウミヤコグサ、エゾノコンギク、キクイモ、 ノイバラ、オオマツヨイグサ、ハルザキヤマガラシ、 ヒメオドリコソウ、メマツヨイグサ	

植生概況調査区域図



石狩町の植物

石狩町には、丘陵、川、海、そして内陸部には防風林や紅葉山砂丘、という豊かな自然があります。山や丘陵地には山地の植物、川沿いには湿地の植物、海岸には海浜植物、内陸部には低地の植物が主に植生しており、多くの種類の植物が分布していることとなります。

I 丘陵地の植物

(1) 八の沢・五の沢・高岡

町の北部、八の沢、五の沢、高岡は樺戸山地の南裾にあたり100m内外の山地と、それに続く丘陵地域です。エゾマツ、トドマツ、カラムツ等の人工林もありますが、ほとんどはエゾイタヤ、シナノキ、ミズナラ、ハリギリなどの、落葉広葉樹林で覆われた自然林です。春先の林床にはフクジュソウ、カタクリ、ニリンソウ、マイヅルソウ、エゾエンゴサクなど、また沢にはミズバショウ、ザゼンソウに加えエゾノリュウキンカの黄色が目につきます。

植物リスト 12-1

写真 フクジュソウ、ネコノメソウ、ヒトリシズカ、アズマイチゲ、
ノビネチドリ、オオカメノキ、ハイイヌガヤ、ヒメイチゲ、
エゾノリュウキンカ

[シダ植物]

トクサ科	スギナ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	オシダ
チャセンシダ科	コタニワタリ

[種子植物]

<裸子植物>

マツ科	トドマツ、エゾマツ、カラマツ
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科	オニグルミ
ヤナギ科	エゾノバッコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ、オヒョウニレ
クワ科	ヤマグワ
イラクサ科	エゾイラクサ
タデ科	イヌタデ、イシミカワ、ミゾソバ、ミチヤナギ、オオイタドリ、 エゾノギシギシ
ナデシコ科	ハコベ
アカザ科	シロザ、アカザ
モクレン科	ホオノキ、キタコブシ
カツラ科	カツラ
キンボウゲ科	フクジュソウ、ヒメイチゲ、ニリンソウ、キクザキイチゲ、 アズマイチゲ、エゾノリュウキンカ
センリョウ科	ヒトリシズカ
マタタビ科	サルナシ
ケシ科	エゾエンゴサク
アブラナ科	コンロンソウ、オオバタネツケバナ
ユキノシタ科	トリアシショウマ、ネコノメソウ、ノリウツギ、エゾアジサイ、 ツルアジサイ、イワガラミ
バラ科	キンミズヒキ、ヤマブキショウマ、オニシモツケ、 ミヤマザクラ、エゾヤマザクラ、シウリザクラ、 ナワシロイチゴ、ヒメリンゴ、スモモ
マメ科	イヌエンジュ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、クサフジ
フウロソウ科	ゲンノショウコ

ユズリハ科

ユズリハ科	エゾユズリハ
ミカン科	キハダ、ツルシキミ
ウルシ科	ツタウルシ、ヤマウルシ
カエデ科	ハウチワカエデ、エゾイタヤ、ベニイタヤ
モチノキ科	ハイイヌツゲ
ツゲ科	フッキソウ
ブドウ科	ノブドウ、ヤマブドウ
シナノキ科	シナノキ
ジンチョウゲ科	ナニワズ
グミ科	トウグミ
スマレ科	オオタチツボスマレ、ミヤマスマレ
アカバナ科	メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ
ミズキ科	ミズキ
ウコギ科	ウド、タラノキ、ハリギリ
セリ科	オオバセンキュウ、エゾニュウ、アマニュウ、オオハナウド、 ドクゼリ、セリ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

ツツジ科	ハナヒリノキ
モクセイ科	ヤチダモ
リンドウ科	ツルリンドウ
アカネ科	クルマバソウ
スイカズラ科	エゾニワトコ、オオカメノキ
レンブクソウ科	レンブクソウ
キク科	エゾヨモギ、エゾノコンギク、ヨブスマソウ、ヨツバヒヨドリ、 タンポポモドキ、アキタブキ、コウゾリナ、ハンゴンソウ、 ミヤマアキノキリンソウ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	ギョウジャニンニク、オオウバユリ、ホウチャクソウ、 カタクリ、クルマユリ、マイズルソウ、オオアマドコロ、 エンレイソウ、オオバナノエンレイソウ
イネ科	カモガヤ、ススキ、オギ、クサヨシ、ヨシ、クマイザサ
サトイモ科	ミズバショウ、ヒメザゼンソウ
ラン科	アケボノシュスラン、ノビネチドリ



フクジュソウ



ネコノメソウ



ヒトリシズカ



アズマイチゲ



ノビネチドリ



オオカメノキ



ハイイヌガヤ



ヒメイチゲ



エゾノリュウキンカ

II 石狩川河畔の植物

(1) 真勲別河畔林（マクンベツ湿原）

石狩河口橋（志美運河水門）から約1km上流の左岸河川敷は約45haにわたってヨシ原とハンノキ林、ヤナギ林などの河畔林で覆われている湿地帯で、原始の石狩平野をほうふつとさせるところです。林床は全道でも有数のミズバショウ群生地として知られ、シーズン（4月下旬～5月上旬）ともなると家族連れなどで賑わうところです。そのほかにも可憐な草花も多く見られます。然し、平成2年年石狩川堤防嵩上拡幅工事に伴い、湿地帯が30mにわたって埋め立てられ、ミズバショウをはじめその他草木の生育地が奪われ貴重な植物が減少しています。（平成2年ミズバショウを保護する為、堤防嵩上拡幅工事反対の保護運動起こる）

植物リスト 12-2

写真 ヤナギトラノオ、ミズトクサ、ハンノキ、ミズバショウ、サゼンソウ、セリ、ドクゼリ、エゾミソハギ

[シダ植物]

トクサ科	スギナ、ミズトクサ
ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	クサソテツ、コウヤワラビ

[種子植物]

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

ヤナギ科	エゾノバッコヤナギ、エゾノカワヤナギ、タチヤナギ、ネコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ
クワ科	カナムグラ
イラクサ科	エゾイラクサ
タデ科	オオイヌタデ、ミゾソバ、オオイタドリ、エゾノギシギシ
ナデシコ科	ウスベニツメクサ
キンポウゲ科	ハイキンポウゲ
アブラナ科	ハルザキヤマガラシ、コンロンソウ、オオバタネツケバナ
バラ科	オニシモツケ、エゾノミツモトソウ、ノイバラ、ナガボノシロワレモコウ、ホザキシモツケ
マメ科	エゾノレンリソウ、シロバナシナガワハギ、シナガワハギ、
クサフジフウロソウ科	ゲンノショウコ、
ツリフネソウ科	キツリフネ
ニシキギ科	コマユミ、マユミ
スミレ科	オオタチツボスミレ、オオバタチツボスミレ、アギスミレ
ミソハギ科	エゾミソハギ
ヒシ科	ヒシ
アカバナ科	メマツヨイグサ
セリ科	オオバセンキュウ、エゾニュウ、ドクゼリ、セリ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科	ヤナギトラノオ、クサレダマ
モクセイ科	ヤチダモ、エゾイボタ
ガガイモ科	シロバナカモメズル
シソ科	ミヤマトウバナ、エゾシロネ、シロネ、ハッカ、ナミキソウ、エゾイヌゴマ
ナス科	オオマルバノホロシ
ゴマノハグサ科	エゾクガイソウ
オオバコ科	オオバコ、ヘラオオバコ

スイカズラ科
キク科

エゾヒョウタンボク、エゾニワトコ、カンボク
ノコギリソウ、エゾヨモギ、エゾノコンギク、エゾゴマナ、ユウゼンギク、アメリカセンダングサ、ヨツバヒヨドリ、ヒヨドリバナ、タンポポモドキ、オオハンゴンソウ、ハンゴンソウ、オオアワダチソウ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、オナモミ

<被子植物> 単子葉植物

オモダカ科	サジオモダカ、オモダカ
ユリ科	オオウバユリ、ホウチャクソウ、タチギボウシ、マイズルソウ、オオバナノエンレイソウ、パイケイソウ
ミズアオイ科	ミズアオイ
イグサ科	イ
アヤメ科	ノハナショウブ、キショウブ
イネ科	イワノガリヤス、カモガヤ、ススキ、クサヨシ、ヨシ、スズメノカタビラ
サトイモ科	ミズバショウ、ザゼンソウ、ヒメザゼンソウ
ミクリ科	ミクリ
ガマ科	ガマ
カヤツリグサ科	オクノカンスゲ、ヤラメスゲ、オニナルコスゲ、ウキヤガラ、フトイ、サンカクイ

II - (1) 真 敷 別 河 畔 林 (マ ク ン ベ ッ 湿 原)



ヤナギトラノオ



ミズトクサ



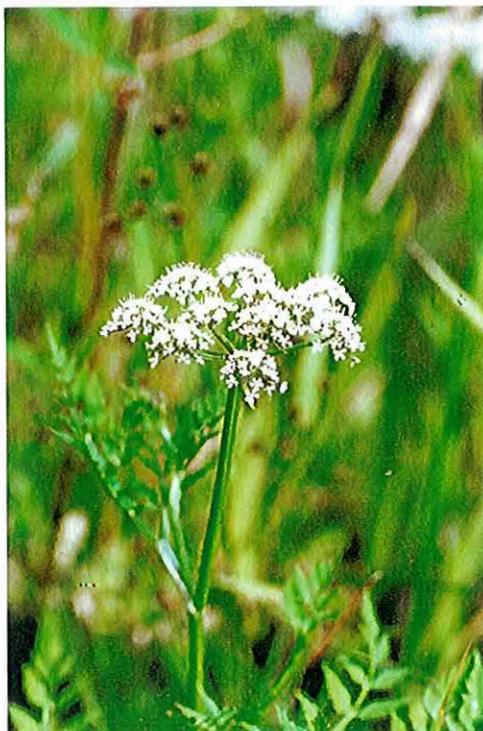
ハンノキ



ミズバショウ



ザゼンソウ



セリ



ドクゼリ



エゾミソハギ

(2) 生振の干潟

マクンベツ湿原ミズバショウ群生地より上流約1kmの河川敷で、平成2年年石狩川堤防嵩上げ工事の際、土砂が採掘されて出来た干潟や沼池です。まだ数年しか経過していませんが川の流れや風、野鳥などにより草花の種が運び込まれて、湿性植物や水性植物が根付き始め、今では数多くの植物がみられます。さらにこれに伴って種々の水鳥（ハクチョウ、シギ、チドリ、カモなど）が立ち寄るようになりました。4月ともなるとハクチョウが数十羽飛来し、人々の目を楽しませてくれます。石狩町では数少ない渡り鳥の休養地となっています。

ここは新しい干潟のため植物遷移が著しく、1年生草本、たとえばオオアブノメは平成4年には普通にみられたのが、6年には探しても見つからなくなっていました。ミズアオイは平成6年には水面を埋めんばかりに繁茂していましたが、7年には半減していました。年々、ヨシやガマなど多年草が勢力をのばしてきています。自然はどのように変化するのか興味のある場所です。

植物リスト 12-3

写真 ガマ、ミズアオイ、ヒシ、サジオモグカ、ヒメガマ、オモダカ

〔種子植物〕

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

カバノキ科	ハンノキ
タデ科	ヤナギタデ、エゾノギシギシ
ナデシコ科	ウスベニツメクサ
キンボウゲ科	ハイキンボウゲ、タガラシ
アブラナ科	ハルザキヤマガラシ
バラ科	エゾノミツモトソウ
マメ科	エゾノレンリソウ、シロバナシナガワハギ、シナガワハギ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、クサフジ
ミソハギ科	エゾミソハギ
ヒシ科	ヒシ
アリノトウグサ科	ホザキノフサモ
アカバナ科	メマツヨイグサ
セリ科	ドクゼリ、セリ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科	ヤナギトラノオ
アワゴケ科	ミズハコベ
シソ科	シロネ、ハッカ
ゴマノハグサ科	オオアブノメ、アゼナ、エゾノカワジシャ
オオバコ科	ヘラオオバコ
キク科	エゾヨモギ、アメリカセンダングサ、タウコギ、エゾノキツネアザミ、セイヨウトゲアザミ、タカアザミ、ヒメムカシヨモギ、サワヒヨドリ、エダウチチチコグサ、キクイモ、オオハンゴンソウ、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、ヒメジョオン

<被子植物> 単子葉植物

オモダカ科	ヘラオモダカ、サジオモダカ、オモダカ
ヒルムシロ科	エビモ
ミズアオイ科	ミズアオイ
アヤメ科	キショウブ
イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ、イ、タチコウガイゼキショウ、コウガイゼキショウ、クサイ
イネ科	コヌカグサ、エゾヌカボ、ハイコヌカグサ、カズノコグサ、イヌビエ、エゾノサヤヌカグサ、クサヨシ、オオアワガエリ、ヨシ、キンエノコロ、

ウキクサ科

ミクリ科

ガマ科

カヤツリグサ科

ウキクサ

ミクリ

ヒメガマ、ガマ

ジョウロウスゲ、カワズスゲ、オニナルコスゲ、タマカヤツリ、マツバイ、クロミノハリイ、ハリイ、ヌマハリイ、ウキヤガラ、ホタルイ、フトイ、カンガレイ、サンカクイ、パラムシロスゲ



ガ マ



ミズアオイ



ヒ シ



サジオモダカ



ヒメガマ



オモダカ



干潟風景

Ⅲ 海岸の植物

(1) 石狩川河口地域

石狩川河口に灯台があります。明治25年に建てられたといいますが、もうかれこれ100年以上にもなります。その100年間に、灯台から先に幅約500m、長さ約1300mの砂嘴が出来ました。砂嘴の一部は昭和53年、町自然保護条例により海浜植物等保護地区に指定され、監視人をおき手厚く保護されてきましたので、山菜として美味のため、他の浜では少なくなっているハマボウフウの大群落もみられます。6月のハマナスの開花の頃には、甘酸っぱい香が漂います。イソスミレやハマハタザオ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、カワラマツバ、エゾカワラナデシコ、ウンランなどの海浜植物が9月頃まで次々に花開きます。また、砂嘴の中程に、年々乾燥化してはきましたが、モウセンゴケなどが生える湿地があり、とりわけ、7月のノハナショウブの群落は見事です。また、海浜植物等保護地区を除く地域を平成3年度にハマナスの丘公園とし、その翌年ヴィジターセンターがオープンしました。

植物リスト 12-4

写真 ウンラン、ハマエンドウ、モウセンゴケ、ハマヒルガオ、ハマナス、
エゾリンドウ、ハマボウフウ、イソスミレ、コウボウムギ

石狩川河口地域の植物 (ハマナスの丘公園) 12-4

[苔蘚植物]

ミズゴケ科 ミズゴケ s p
スギゴケ科 スギゴケ s p
ハナゴケ科 ハナゴケ

[シダ植物]

トクサ科 スギナ、トクサ
ハナヤスリ科 エゾフユノハナワラビ
オシダ科 コウヤワラビ、ヒメシダ

[種子植物]

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科 オニグルミ
ヤナギ科 エゾヤマナラシ、セイヨウハコヤナギ、イヌコリヤナギ、
コリヤナギ、エゾノカワヤナギ、タチヤナギ
カバノキ科 ケヤマハンノキ、ハンノキ、シラカンバ
タデ科 イヌタデ、サナエタデ、ハイミチヤナギ、オオイタドリ、
ヒメスイバ、エゾノギシギシ
ナデシコ科 エゾカワラナデシコ、オオヤマフスマ、ムシトリナデシコ、
ハコベ
アカザ科 シロザ、オカヒジキ
キンボウゲ科 アキカラマツ
スイレン科 ヒツジグサ
オトギリソウ科 オトギリソウ、ミズオトギリ
モウセンゴケ科 モウセンゴケ
アブラナ科 ハマハタザオ、ハルザキヤナガラシ
バラ科 オニシモツケ、エゾノミツモトソウ、ハマナス、
ナワシロイチゴ、ナガボノシロワレモコウ
マメ科 イタチハギ、ハマエンドウ、エゾノレンリソウ、メドハギ、
ミヤコグサ、シナガワハギ、ハリエンジュ、
タチオランダゲンゲ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ
ニシキギ科 オニツルウメモドキ、コマユミ
ブドウ科 ノブドウ、ヤマブドウ
グミ科 アキグミ
スミレ科 イソスミレ、ツボスミレ
ミソハギ科 エゾミソハギ
アカバナ科 メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ
アリノトウグサ科 アリノトウグサ

ウコギ科 ハリギリ
セリ科 オオバセンキュウ、ドクゼリ、ハマボウフウ、オオチドメ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科 クサレダマ
モクセイ科 イボタノキ
リンドウ科 エゾリンドウ
ガガイモ科 シロバナカモメズル
アカネ科 ホソバノヨツバムグラ、カワラマツバ、エゾノカワラマツバ
アカネムグラ
ヒルガオ科 ハマヒルガオ
シソ科 シロネ、ヒメシロネ、エゾシロネ、ナミキソウ、エゾナミキ
イヌゴマ、エゾイヌゴマ
ナス科 オオマルバノホロシ
ゴマノハグサ科 ウンラン
スイカズラ科 キンギンボク
キキョウ科 サワギキョウ
キク科 ノコギリソウ、セイヨウノコギリソウ、ハマオトコヨモギ、
エゾヨモギ、ユウゼンギク、アメリカセンダングサ、
フランスギク、タカアザミ、ヒメムカシヨモギ、ヒヨドリバナ、
コウリンタンポポ、ヤナギタンポポ、タンポポモドキ、
オグルマ、カセンソウ、ハマニガナ、アキノノゲシ、
アキタブキ、トゲチシャ、コウゾリナ、ノボロギク、
セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、
ハチジョウナ、ノゲシ、ヒメジオン、エゾタンポポ、
セイヨウタンポポ、イガオナモミ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科 タチギボウシ、オニユリ、エゾスカシユリ、ヒメイズイ
アヤメ科 ノハナショウブ、キショウブ
イグサ科 イ、タチコウガイゼキショウ、クサイ、ヒライ、スズメノヤリ
イネ科 シバムギ、コヌカグサ、エゾヌカボ、スズメノテッポウ、
ハルガヤ、コブナグサ、ヤマアワ、イワノガリヤス、カモガヤ、
アキメヒシバ、タイヌビエ、ハマニンニク、
ヒロハウシノケグサ、ウシノケグサ、コウボウ、ホソムギ、
オギ、ススキ、ヌマガヤ、クサヨシ、ヨシ、ヌマイチゴツナギ、
ナガハグサ、スズメノカタビラ、キンエノコロ、エノコロ

カヤツリグサ科 チャシバスゲ、コウボウムギ、ヒカゲスゲ、ヤラメスゲ、
ゴウソ、コウボウシバ、オオカサスゲ、オニナルコスゲ、
ヒメクゲ、クロミノハリイ、フトイ、アブラガヤ
ラン科 クゲヌマラン、ネジバナ

Ⅲ - (1) 石 狩 川 河 口 地 域



ウンラン



ハマエンドウ



モウセンゴケ



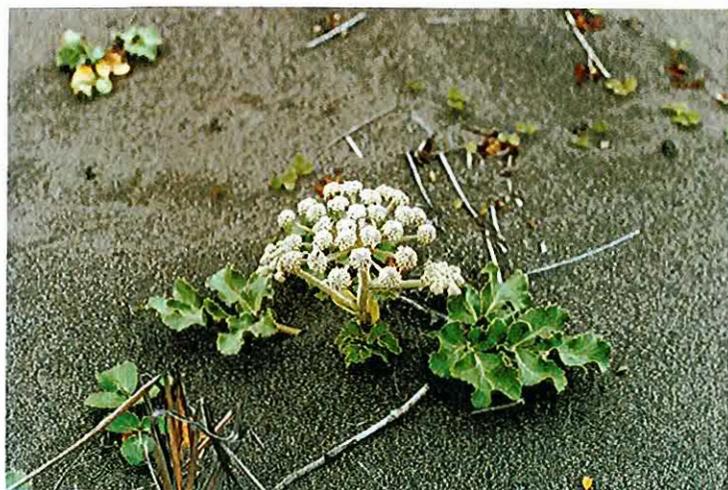
ハマヒルガオ



ハマナス



エゾリンドウ



ハマボウフウ



イソスミレ



コウボウムギ

(2) 石狩砂丘

銭函の海岸から無煙浜までの、約20 kmにもおよぶ砂丘には（石狩新港や道路などで切断されてはいますが）、海岸草原と主にカシワからなる大規模な天然海岸林（幅500～600 m）が続いています。海に垂直に海岸林を横断している北三線道路から砂丘を観察すると、海側の第一砂丘には、コウボウムギ、ハマニンニク群落、次いでハマナス、ハマエンドウ群落など、小高い第二砂丘の影には地を這うようなカシワが、内陸部に行くに従い、次第に高さを増しながら広がり、それにエゾイタヤ、アズキナシ、ハリギリなど落葉広葉樹が交ざり加わっていく様子が手に取るようにわかります。カシワ林の林床にはエゾチドリなど貴重な植物も観られます。

砂丘の火葬場付近に、砂の採掘により出来た池があります。年々自然遷移で植生は変わってきてはいますが、ヒメガマやジョウロウスゲ、タヌキモなど珍しい植物がみられます。

植物リスト 12-5

写真 アキノキリンソウ、エゾノカワラマツバ、エゾスカシユリ、
エゾカワラナデシコ、アキグミ、オカヒジキ、エゾチドリ、カシワ

[シダ植物]

トクサ科 スギナ
ワラビ科 ワラビ

[種子植物]

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

ヤナギ科 ギンドロ、エゾノバッコヤナギ、イヌコリヤナギ、オノエヤナギ
ブナ科 ミズナラ、カシワ
タデ科 オオイタドリ、スイバ、ヒメスイバ、ナガバギシギシ、
エゾノギシギシ
ナデシコ科 エゾカワラナデシコ、オオヤマフスマ
アカザ科 シロザ、オカヒジキ
スイレン科 ヒツジグサ
ボタン科 ヤマシャクヤク
アブラナ科 ハマハタザオ、ハルザキヤマガラシ
バラ科 ハマナス、ナワシロイチゴ、アズキナシ
マメ科 イタチハギ、ハマエンドウ、エゾノレンリソウ、イヌエンジュ、
シナガワハギ、ハリエンジュ、タチオランダゲンゲ、
ムラサキツメクサ、シロツメクサ、クサフジ、ヒロハクサフジ
カエデ科 エゾイタヤ
ニシキギ科 オニツルウメモドキ、コマユミ、マユミ
ブドウ科 ノブドウ、ヤマブドウ
グミ科 アキグミ
スミレ科 イソスミレ
ミソハギ科 エゾミソハギ
アカバナ科 メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ
ウコギ科 ハリギリ
セリ科 ホタルサイコ、ハマボウフウ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科 クサレダマ
ハイノキ科 サワフタギ
モクセイ科 ミヤマイボタ
アカネ科 エゾノカワラマツバ
ヒルガオ科 ハマヒルガオ
シソ科 エゾシロネ、ナミキソウ
ナス科 オオマルバノホロシ
ゴマノハグサ科 ウンラン、ミヤマママコナ、エゾルリトラノオ

タヌキモ科
オオバコ科
スイカズラ科
キク科

タヌキモ
オオバコ、ヘラオオバコ
キンギンボク、ミヤマガマズミ
ノコギリソウ、セイヨウノコギリソウ、オトコヨモギ、
エゾヨモギ、ユウゼンギク、アメリカセンダングサ、
フランスギク、ヒメムカシヨモギ、ヤナギタンポポ、
タンポポモドキ、オグルマ、カセンソウ、ハマニガナ、
アキノノゲシ、アキタブキ、トゲチシャ、コウゾリナ、
ノボロギク、セイトカアワダチソウ、オオアワダチソウ、
アキノキリンソウ、ハチジョウナ、ノゲシ、ヒメジオン、
エゾタンポポ、セイヨウタンポポ、イガオナモミ

<被子植物> 単子葉植物

オモダカ科 サジオモダカ、オモダカ
ユリ科 タチギボウシ、オニユリ、エゾスカシユリ、ヒメイズイ
アヤメ科 ノハナシヨウブ、キシヨウブ
イグサ科 イ、タチコウガイゼキショウ、クサイ、ヒライ、スズメノヤリ
イネ科 シバムギ、コヌカグサ、エゾヌカボ、スズメノテッポウ、
ハルガヤ、ヤマアワ、カモガヤ、ハマニンニク、
ヒロハウシノケグサ、ウシノケグサ、コウボウ、オギ、ススキ、
チガヤ、ヨシ、ナガハグサ、スズメノカタビラ、キンエノコロ、
エノコロ
カヤツリグサ科 ジョウロウスゲ、チャシバスゲ、コウボウムギ、ヤラメスゲ、
コウボウシバ、フトイ、カンガレイ、サンカクイ、アブラガヤ
ラン科 アオチドリ、エゾチドリ、ネジバナ

Ⅲ - (2) 石 狩 砂 丘



アキノキリンソウ



エゾノカワラマツバ



エゾスカシユリ



エゾカワラナデシコ



アキグミ



オカヒジキ



エゾチドリ



カシワ

IV 内陸部の植物

(1) 防風林

石狩町には明治26年に北海道庁が植民地区画測定をする時に、村民の願いによって新たに防風林に位置付けされ、先人により守られてきた天然林が、今も縦、横、斜めの防風保安林として多数残っています。どの防風林もあまり人手が入らず原野だったころを忍ばせています。

① 花川南防風林

花川住宅地を紅葉山砂丘から石狩湾新港背後の海岸防風林まで、斜めに走る防風林ですが、現在は石狩湾新港建設のため海岸部分は切断されています。そのうち、住宅地に接している部分、紅葉山砂丘から道道手稲石狩線で遮断されるまでの、幅約70m、長さ約1.8kmを主に調査しています。そこは営林署により年1回下草刈りがあり、低木、幼木が刈られています。植生は主に砂丘側はミズナラ・エゾイタヤ、他の地域はヤチダモが優先しています。林床はツタウルシが多いですが、オオバナノエンレイソウなどの群落や貴重なチョウジソウなどもあります。自然に踏まれてできた散策路もあり、住民に親しまれているところです。

植物リスト 12-6

写真 ナニワズ、オオウバユリ、エゾノウワミズザクラ、キクザキイチゲ、
キハダ、オニグルミ、オオバナノエンレイソウ、アオチドリ、
マイヅルソウ、

[シダ植物]

トクサ科	スギナ、トクサ
ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	ヤマイヌワラビ、クサソテツ、コウヤワラビ

[種子植物]

<裸子植物>

イチョウ科	イチョウ
マツ科	トドマツ、エゾマツ、カラマツ、ウラジロモミ、ストロブマツ
ヒノキ科	ニオイヒバ
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ
イチイ科	イチイ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科	オニグルミ
ヤナギ科	ドロノキ、セイヨウハコヤナギ、エゾノバッコヤナギ、イヌコリヤナギ、エゾノカワヤナギ、タチヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ
クワ科	カラハナソウ、ヤマグワ
イラクサ科	アオミズ、エゾイラクサ
タデ科	ヤナギタデ、オオイヌタデ、イヌタデ、イシミカワ、アキノウナギツカミ、ミゾソバ、ハナタデ、ミチヤナギ、オオイタドリ、ヒメスイバ、エゾノギシギシ
ナデシコ科	ナンバンハコベ、オオヤマフスマ、ウシハコベ、ハコベ
アカザ科	シロザ
モクレン科	ホオノキ、キタコブシ
カツラ科	カツラ
キンポウゲ科	ククザキイチゲ、アズマイチゲ、サラシナショウマ
メギ科	メギ
ツツラフジ科	コウモリカズラ
マタタビ科	サルナシ
オトギリソウ科	トモエソウ、オトギリソウ
アブラナ科	オオバタネツケバナ、キレハイヌガラシ
ユキノシタ科	ノリウツギ、ツルアジサイ、イワガラミ

バラ科

キンミズヒキ、クロミサンザシ、オオダイコンソウ、ダイコンソウ、エゾノコリンゴ、ズミ、エゾノミツモトソウ、エゾヤマザクラ、サトザクラ、エゾノウワミズザクラ、シウリザクラ、ノイバラ、ハマナス、エゾイチゴ、ナワシロイチゴ、エビガライチゴ、アズキナシ、ナナカマドイヌエンジュ、フジ、ニセアカシヤ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、クサフジ

マメ科

カタバミ科	エゾタチカタバミ
フウロソウ科	ゲンノショウコ
ミカン科	キハダ
ニガキ科	ニワウルシ
ウルシ科	ツタウルシ、ヌルデ
カエデ科	ハウチワカエデ、エゾイタヤ、カラコギカエデ、アカイタヤ
ツリフネソウ科	キツリフネ
モチノキ科	ハイイヌツゲ
ニシキギ科	ツルウメモドキ、コマユミ、ツルマサキ、ツリバナ、オオツリバナ、マユミ

ツゲ科

クロウメモドキ科	エゾノクロウメモドキ
ブドウ科	ノブドウ、ヤマブドウ
シナノキ科	シナノキ、オオバボダイジュ
ジンチョウゲ科	ナニワズ
スマレ科	オオタチツボスマレ、ツボスマレ
ミソハギ科	エゾミソハギ
アカバナ科	ミズタマソウ、エゾアカバナ、メマツヨイグサ
ミズキ科	ミズキ
ウコギ科	ケヤマウコギ、コシアブラ、タラノキ、ハリギリ
セリ科	オオバセンキュウ、ミツバ、セリ、ヤブニンジン

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科	クサレダマ
モクセイ科	イボタノキ、ヤチダモ、ムラサキハシドイ
キョウチクトウ科	チョウジソウ
ガガイモ科	シロバナカモメヅル、ガガイモ
アカネ科	ククルマソウ、ホソバノヨツバムグラ、オククルマムグラ
ヒルガオ科	ヒロハヒルガオ、ハマヒルガオ
シソ科	ミヤマトウバナ、ナギナタコウジュ、カキドウシ、イヌゴマ、ツルニガクサ、

ナス科	オオマルバノホロシ
オオバコ科	オオバコ、ヘラオオバコ
スイカズラ科	エゾニワトコ、カンボク
キク科	セイヨウノコギリソウ、ゴボウ、オトコヨモギ、 エゾノコンギク、エゾゴマナ、ユウゼンギク、 アメリカセンダングサ、キツネアザミ、セイヨウトゲアザミ、 ヒメムカシヨモギ、ヒヨドリバナ、ヨツバヒヨドリ、キクイモ、 タンポポモドキ、オグルマ、ヤマニガナ、コシカギク、 アキタブキ、コウゾリナ、ハンゴンソウ、 セイトカアワダチソウ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、 ハチジョウナ、ノゲシ、ヒメジオン、セイヨウタンポポ、 オニタビラコ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	ギョウジャニンニク、オオウバユリ、ホウチャクソウ、 タチギボウシ、マイヅルソウ、ツクバネソウ、クルマユリ、 オオアマドコロ、ユキザサ、シオデ、エンレイソウ、 オオバナノエンレイソウ、バイケイソウ
イグサ科	イ、クサイ
ツユクサ科	ツユクサ
イネ科	キツネガヤ、イヌビエ、カモガヤ、ススキ、ネズミガヤ、 ヌカキビ、クサヨシ、ヨシ、クマイザサ、ナガハグサ、 キンエノコロ
サトイモ科	マムシグサ、ミズバショウ、ヒメザゼンソウ
カヤツリグサ科	アオスゲ、ヒロバスゲ、オオカサスゲ
ラン科	クゲヌマラン、アオチドリ



ナニワズ



オオウバユリ



エゾノウワミズザクラ



キクザキイチゲ



オニグルミ



オオバナノエンレイソウ



アオチドリ



マイヅルソウ

(2) 花川北防風林

花畔川地の中心を東西に横断する幅約70m、長さ約1.3kmの防風林です。植生は南防風林とほとんど変わりませんが、下草刈りがないため西側の道路より高いところの林床はササが茂り、東側の低いところはマユミ、コマユミ、サワフタギ、ハイイヌツゲ、ホザキナナカマドなどの低木で覆われています。平成元年の択伐でツタウルシが増加してきましたが、跡地に植えられたシラカンバは4m程に育っています。防風林に沿っての両側と横断の生活道路、また子供達が虫取りの為に潜り込む道などがあり、住民に親しまれています。

植物リスト 12-7

写真 コマユミ、マユミ、カンボク、ホオノキ、ホザキナナカマド、
クロミサンザシ、ハイイヌツゲ、サワフタギ、ケヤマウコギ

[シダ植物]

トクサ科	スギナ、トクサ
ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	クサソテツ

[種子植物]

<裸子植物>

マツ科	トドマツ、エゾマツ、カラマツ
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科	オニグルミ
ヤナギ科	エゾヤマナラシ、ドロノキ、セイヨウハコヤナギ、 エゾノバッコヤナギ、イヌコリヤナギ、ウンリュウヤナギ、 エゾノカワヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ
クワ科	カナムグラ、ヤマグワ
イラクサ科	エゾイラクサ
タデ科	ツルタデ、イヌタデ、オオイタドリ、ヒメスイバ、スイバ、 エゾノギシギシ
ナデシコ科	ハコベ、ヒロハマシテマ
アカザ科	シロザ
モクレン科	ホオノキ
アケビ科	ミツバアケビ
マタタビ科	サルナシ(コクワ)
アブラナ科	ナズナ
ユキノシタ科	ノリウツギ、ツルアジサイ、フサスグリ、マルスグリ、 イワガラミ
バラ科	クロミサンザシ、オオダイコンソウ、ズミ、エゾヤマザクラ、 シウリザクラ、ノイバラ、ハマナス、エゾイチゴ、 ナワシロイチゴ、ホザキナナカマド、アズキナシ、ナナカマド
マメ科	イヌエンジュ、ニセアカシヤ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ
カタバミ科	エゾタチカタバミ
フウロソウ科	ゲンノショウコ
ミカン科	キハダ

ウルシ科	ツタウルシ、ヌルデ
カエデ科	ヤマモミジ、カラコギカエデ、ハウチワカエデ、エゾイタヤ、 アカイタヤ
モチノキ科	ハイイヌツゲ
ニシキギ科	オニツルウメモドキ、コマユミ、ツルマサキ、ツリバナ、マユミ
ツゲ科	フッキソウ
ブドウ科	ノブドウ、ヤマブドウ
シナノキ科	シナノキ
ジンチョウゲ科	ナニワズ
アカバナ科	メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ
ミズキ科	ミズキ
ウコギ科	ケヤマウコギ、コシアブラ、タラノキ、ハリギリ
セリ科	オオバセンキュウ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科	クサレダマ
ハイノキ科	サワフタギ
モクセイ科	ヤチダモ、エゾイボタ
ガガイモ科	ガガイモ
キヒルガオ科	ヒルガオ
シソ科	ミヤマトウバナ、イヌゴマ
ゴマノハグサ科	ビロードモウズイカ
オオバコ科	オオバコ、ヘラオオバコ
スイカズラ科	エゾニワトコ、カンボク
キク科	セイヨウノコギリソウ、オトコヨモギ、エゾヨモギ、 エゾノコンギク、エゾゴマナ、フランスギク、エゾアザミ、 ヒメムカシヨモギ、ヒメジオン、ヨツバヒヨドリ、キクイモ、 タンポポモドキ、アキタブキ、オオハンゴンソウ、 ハンゴンソウ、ノボロギク、オオアワダチソウ、ハチジョウナ、 セイヨウタンポポ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	ギョウジャニンニク、オオウバユリ、ホウチャクソウ、 タチギボウシ、オニユリ、マイズルソウ、ツクバネソウ、 オオアマドコロ、シオデ、エンレイソウ、 オオバナノエンレイソウ、バイケイソウ
ツユクサ科	ツユクサ

イネ科	イワノガリヤス、カモガヤ、ススキ、クサヨシ、ヨシ、 クマイザサ、スズメノカタビラ、ナガハグサ
サトイモ科	ヒメザゼンソウ
カヤツリグサ科	オクノカンスゲ
ラン科	アオチドリ

IV - (1) - ② 花 川 北 防 風 林



コマユミ



マユミ



カンボク



ホオノキ



ホザキナナカマド



クロミサンザシ



ハイイヌツゲ



サウフタギ



ケヤマウコギ

③ 生振筋違防風林・生振基線防風林

生振の農耕地を南北に縦断する面積20.42ha、長さ約2.4km。周りが農耕地の為によく保全されている防風林です。ハルニレ、シナノキ、エゾイタヤ、ハリギリ、ヤチダモなどの大樹があり、林床はササが茂っていますが、低いところにはミズバショウ、バイケイソウ、オオハナウド、オオバナノエンレイソウ、オオウバユリなど湿った所を好む植物の群落もあります。隣接する生振小学校の子供たちの、観察の為に散策路もついています。

基線防風林は生振のほぼ中央部を東西に横断する面積約30ha、長さ約4.2km、幅約50～60mの防風林です。植生はヤチダモ、エゾイタヤ、ハリギリ、キハダ、ハルニレ、シラカンバなどで、林床にはカタクリやコジマエンレイソウなども見られます。

植物リスト 12-8

写真 カタクリ、エゾエンゴサク、サルメンエビネ、イワガラミ、
コジマエンレイソウ、オオバタチツボスミレ、ツルアジサイ、
ベニバナイチヤクソウ

[シダ植物]

トクサ科	スギナ、トクサ
ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	ヤマイヌワラビ、オシダ、ナライシダ、クサソテツ、 コウヤワラビ、ジュウモンジシダ

[種子植物]

<裸子植物>

マツ科	トドマツ、エゾマツ、カラマツ
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科	オニグルミ
ヤナギ科	セイヨウハコヤナギ、エゾノバッコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ
クワ科	ヤマグワ
イラクサ科	アオミズ、エゾイラクサ、ムカゴイラクサ
タデ科	イヌタデ、イシミカワ、ミゾソバ、ミチヤナギ、オオイタドリ、 エゾノギシギシ
ナデシコ科	ハコベ
アカザ科	シロザ、アカザ
モクレン科	ホオノキ、キタコブシ
カツラ科	カツラ
キンポウゲ科	フクジュソウ、ニリンソウ、ツルキンポウゲ
マタタビ科	サルナシ
ケシ科	クサノオウ、エゾエンゴサク
アブラナ科	コンロンソウ
ユキノシタ科	ツルアジサイ、イワガラミ
バラ科	キンミズヒキ、オニシモツケ、オオダイコンソウ、 ダイコンソウ、エゾヤマザクラ、シウリザクラ、ノイバラ、 ナワシロイチゴ
マメ科	イヌエンジュ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、 ヒロハクサフジ
フウロソウ科	ゲンノショウコ
ユズリハ科	エゾユズリハ

ミカン科	キハダ、ツルシキミ
ウルシ科	ツタウルシ
カエデ科	ハウチワカエデ、エゾイタヤ、ベニイタヤ
ツリフネソウ科	キツリフネ、ツリフネソウ
モチノキ科	ハイイヌツゲ
ニシキギ科	ツルウメモドキ、コマユミ、ツルマサキ、ツリバナ、マユミ
ツゲ科	フッキソウ
ブドウ科	ノブドウ、ヤマブドウ
シナノキ科	シナノキ
ジンチョウゲ科	ナニワズ
スマレ科	オオタチツボスミレ、オオバタチツボスミレ、ツボスミレ
ウリ科	アマチャヅル
ミソハギ科	エゾミソハギ
アカバナ科	メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ
ウコギ科	タラノキ、ハリギリ
セリ科	エゾノヨロイグサ、シャク、ドクゼリ、ミツバ、オオハナウド、 セリ、ウマノミツバ、ヤブニンジン

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

イチヤクソウ科	ベニバナイチヤクソウ
サクラソウ科	ヤナギトラノオ
モクセイ科	ヤチダモ、エゾイボタ
ガガイモ科	ガガイモ、シロバナカモメヅル
アカネ科	クルマバソウ、オククルマムグラ
ヒルガオ科	ヒルガオ
シソ科	エゾシロネ、ナミキソウ
ナス科	オオマルバノホロシ
オオバコ科	オオバコ、ヘラオオバコ
スイカズラ科	エゾニワトコ、オオカメノキ、カンボク
キキョウ科	ツルニンジン
キク科	エゾヨモギ、エゾゴマナ、ヨブスマソウ、エゾノキツネアザミ、 チシマアザミ、ヒメムカシヨモギ、ヒヨドリバナ、 ヨツバヒヨドリ、キクイモ、タンポポモドキ、トゲチシャ、 イヌカミツレ、アキタブキ、コウゾリナ、オオハンゴンソウ、 ハンゴンソウ、オオアワダチソウ、ハチジョウナ、ノゲシ、 ヒメジオン、セイヨウタンポポ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	ギョウジャニンニク、オオウバユリ、ホウチャクソウ、カタクリ、ヤブカンゾウ、タチギボウシ、オニユリ、マイズルソウ、ツクバネソウ、クルマバツクバネソウ、オオアマドコロ、ユキザサ、シオデ、エンレイソウ、オオバナノエンレイソウ、コジマエンレイソウ、バイケイソウ
アヤメ科	ノハナショウブ
ツユクサ科	ツユクサ
イネ科	コヌカグサ、タイヌビエ、カモガヤ、ススキ、クサヨシ、ヨシ、チマキザサ、エノコログサ
サトイモ科	マムシグサ、ミズバショウ、ヒメザゼンソウ
カヤツリグサ科	ヒゴスゲ、ヒロバスゲ
ラン科	サルメンエビネ、サイハイラン、コケイラン

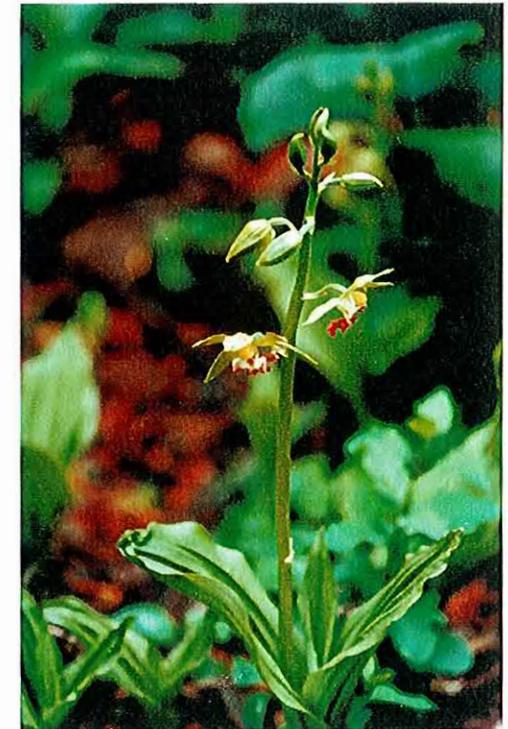
IV - (1) - ③ 生振筋違防風林・生振基線防風林



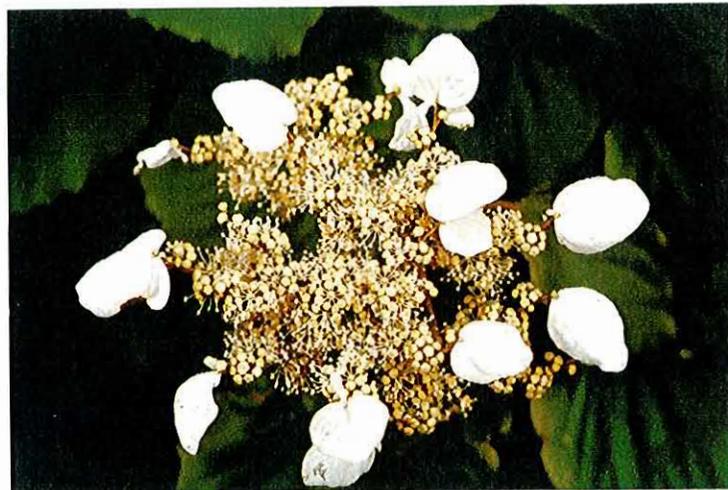
カタクリ



エゾエンゴサク



サルメンエビネ



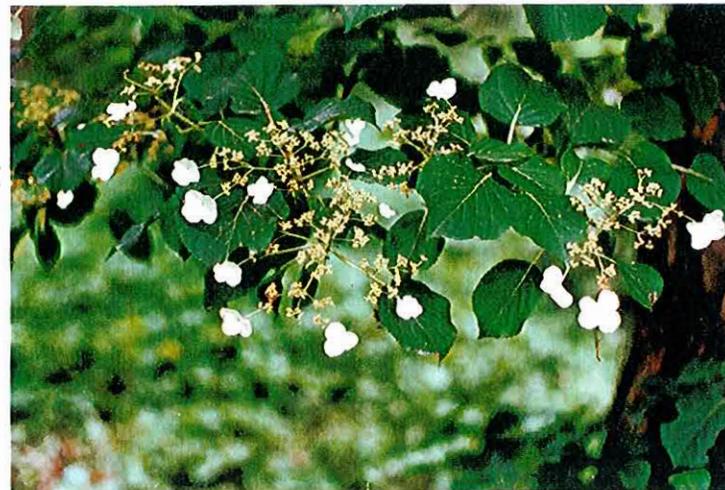
イワガラミ



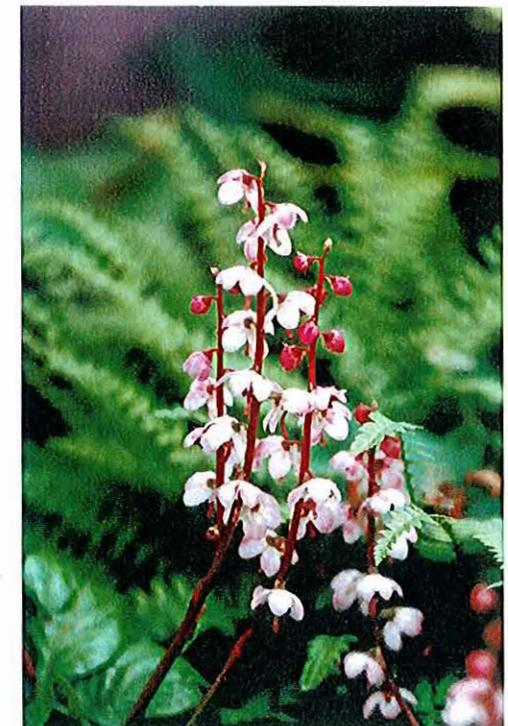
コジマエンレイソウ



オオバタチツボスミレ



ツルアジサイ



ベニバナイチヤクソウ

④ 遮断緑地

石狩湾新港建設でカシワ海岸防風林が切断されたため、昭和51～52年に風よけとして、切断された防風林と平行に、内陸部側の樽川に、ヤナギやポプラ、ドロヤナギ、ニセアカシヤ、ヤチダモ、ハンノキなどが植えられ、新しい人工防風林が造られました。今では10m以上にも成長し、こんもりとした立派な防風林になっています。林床にはエゾキンポウゲやオオタチツボスミレの大きな群落があり、オオウバユリ、オオバナノエンレイソウ、ツクバネソウ、ニリンソウなども増加しています。また、花畔の従来防風林との接点あたりには野鳥も多く見られ、将来が楽しみな緑地になっています。

植物リスト 12-9

写真 ツボスミレ、オオタチツボスミレ、キツリフネ、フッキソウ、
ツクバネソウ、ニリンソウ、オオアマドコロ、エゾキンポウゲ、
エゾフユノハナワラビ

遮断緑地の植物 12-9

[シダ植物]

ハナヤスリ科	エゾフユノワラビ
オシダ科	クサソテツ

[種子植物]

<裸子植物>

マツ科	トドマツ
-----	------

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

ヤナギ科	ドロノキ、セイヨウハコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ
キンポウゲ科	ニリンソウ、エゾキンポウゲ
バラ科	ナナカマド
マメ科	ニセアカシヤ
ツリフネソウ科	キツリフネ
ツゲ科	フッキソウ
スマレ科	オオタチツボスマレ、ツボスマレ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

モクセイ科	ヤチダモ
-------	------

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	オオウバユリ、ツクバネソウ、オオアマドコロ、 オオバナノエンレイソウ
-----	---------------------------------------

IV - (1) - ④ 遮 断 緑 地



ツボスミレ



オオタチツボスミレ



キツリフネ



フッキソウ



ツクバネソウ



ニリンソウ



オオアマドコロ



エゾキンポウゲ



エゾフユノハナワラビ

(2) 紅葉山砂丘

紅葉山砂丘は海岸線から5～6 kmほど内陸部に、現在の海岸線と平行して、手稲前田から生振、美登位にいたる約15 kmの小高い丘の連なりでした。（近年生振・美登位地区は生振砂丘といわれている）花川南防風林の南東側や藤女子学園、紅南小学校南側の紅南スロープ、屯田墓地、自衛隊演習林などが砂丘の上であり、ミズナラ・イタヤなどの自然林が残っています。

植物リスト 12-10

写真 ノブドウ、クゲヌマラン、ハンゴンソウ、クルマユリ、クマイチゴ、
エゾスズラン、アズキナシ、ウメガサソウ

紅葉山砂丘の植物(紅南スロープ、屯田墓地、自衛隊演習林一部)12-10

[シダ植物]

トクサ科	スギナ、トクサ
ハナヤスリ科	エゾフユノハナワラビ
ワラビ科	ワラビ

[種子植物]

<裸子植物>

マツ科	カラマツ
イヌガヤ科	ハイイヌガヤ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

ヤナギ科	ドロノキ、セイヨウハコヤナギ、エゾノバッコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
ブナ科	ミズナラ
ニレ科	ハルニレ
クワ科	ヤマグワ
タデ科	イシミカワ、オオイタドリ、ヒメスイバ
ナデシコ科	ムシトリナデシコ
カツラ科	カツラ
ツツラフジ科	コウモリカズラ
マタタビ科	サルナシ
バラ科	オニシモツケ、ズミ、クマイチゴ、ナワシロイチゴ、アズキナシ
マメ科	イタチハギ、イヌエンジュ
ミカン科	キハダ
ニガキ科	ニワウルシ
ウルシ科	ツタウルシ、ヌルデ
カエデ科	エゾイタヤ、アカイタヤ
モチノキ科	ハイイヌツゲ
ニシキギ科	オニツルウメモドキ、コマユミ、ツリバナ、マユミ
ツゲ科	フッキソウ
ブドウ科	ノブドウ、ヤマブドウ、
シナノキ科	シナノキ
ジンチョウゲ科	ナニワズ
グミ科	トウグミ
アカバナ科	メマツヨイグサ
ウコギ科	ケヤマウコギ、タラノキ、ハリギリ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

イチヤクソウ科	ウメガサソウ
モクセイ科	ヤチダモ
ガガイモ科	シロバナカモメヅル、ガガイモ
ムラサキ科	ヒレハリソウ
オオバコ科	オオバコ、ヘラオオバコ
キク科	セイヨウノコギリソウ、オトコヨモギ、ユウゼンギク、ヒヨドリバナ、ヤナギタンポポ、タンポポモドキ、コウゾリナ、ハンゴンソウ、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、セイヨウタンポポ

<被子植物> 単子葉植物

ユリ科	ギョウジャニンニク、クルマユリ、ツクバネソソウ、ヒメイズイ、オオアマドコロ、シオデ
イネ科	ススキ、ヨシ
カヤツリグサ科	アオスゲ
ラン科	クゲヌマラン、サイハイラン、エゾスズラン、ネジバナ

IV - (2) 紅葉山砂丘



ノブドウ



クルマユリ



エゾスズラン



クゲヌマラン



アズキナシ



ハンゴンソウ



クマイチゴ



ウメガサソウ

(3) 美登位湿地

生振砂丘（紅葉山砂丘）の内陸側の平野部は海が退いて出来た陸地（約5000年前頃）で、干潟から沼沢地・湿地と変わってきたため、今もその名残で水分を含んだ粘土地や、泥炭地が多いところです。この湿地は多くの草木の植生が見られる石狩町でも数少ない湿原の一つです。近年この湿原の有効利用を図る名目で、排水溝を掘り、側溝を整備した為、水位が低下してエゾリンドウ、サワシロギクなどの貴重な植物が絶滅あるいは減少しています。

植物リスト 12-11

写真 クサレタマ、ナガボノシロワレモコウ、ノハナショウブ、ヤナギラン、
ノリウツギ、オトギリソウ、サワシロギク、サワギキョウ

美 登 位 湿 原 の 植 物 12-11

[シダ植物]

トクサ科	スギナ
ゼンマイ科	ゼンマイ
ワラビ科	ワラビ
オシダ科	オシダ、ヒメシダ

[種子植物]

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

ヤマモモ科	ヤチヤナギ
ヤナギ科	ネコヤナギ
カバノキ科	ハンノキ、シラカンバ
タデ科	オオイヌタデ、イシミカワ、ミゾソバ、ネバリタデ、ヒメスイバ
ナデシコ科	オオヤマフスマ
オトギリソウ科	オトギリソウ、ミズオトギリ
アブラナ科	ハルザキヤマガラシ
ユキノシタ科	ノリウツギ
バラ科	エゾノコリンゴ、ナワシロイチゴ、ナガボノシロワレモコウ、ホザキシモツケ
マメ科	エゾヤマハギ、シロツメクサ
モチモキ科	イヌツゲ
スマレ科	ツボスマレ
アカバナ科	ヤナギラン、オオマツヨイグサ
アリノトウグサ科	アリノトウグサ
ウコギ科	タラノキ
セリ科	ドクゼリ、オオチドメ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

サクラソウ科	クサレダマ
モクセイ科	ヤチダモ
シソ科	エゾシロネ、ヒメシロネ
ナス科	オオマルバノホロシ
オオバコ科	ヘラオオバコ
キキョウ科	サワギキョウ

キク科

ノコギリソウ、セイヨウノコギリソウ、ヤマハハコ、オトコヨモギ、エゾヨモギ、エゾノコンギク、エゾゴマナ、ユウゼンギク、サワシロギク、エゾノサワアザミ、アメリカオニアザミ、ヨツバヒヨドリ、カセンソウ、アキタブキ、コウゾリナ、オオハンゴンソウ、ハンゴンソウ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、ヒメジョオン

<被子植物> 単子葉植物

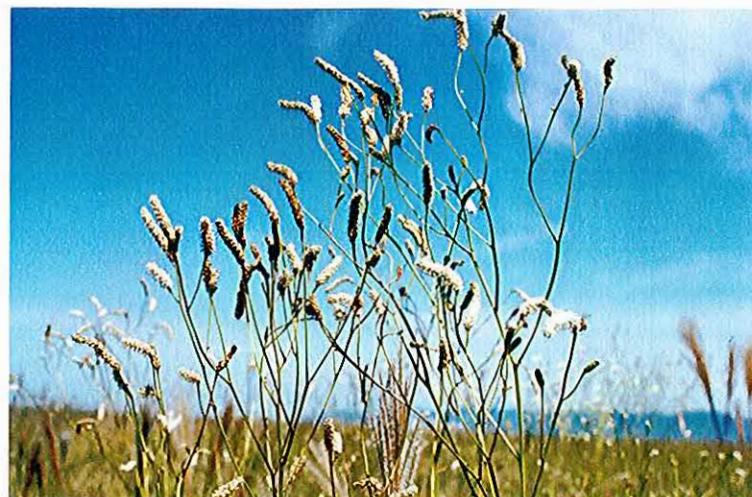
ヒルムシロ科	ヒルムシロ
ユリ科	タチギボウシ
アヤメ科	ノハナショウブ
イグサ科	イ
イネ科	コヌカグサ、ヤマアワ、イワノガリヤス、オギ、ススキ、ヨシ、ナガハグサ、クマイザサ
ガマ科	ガマ
カヤツリグサ科	コハリスゲ、サギスゲ、アブラガヤ



クサレダマ



オトギリソウ



ナガボノシロワレモコウ



ヤナギラン



サワシロギク



ノハナショウブ



ノリウツギ



サワギキョウ

(4) 住宅地の植物

住宅地の空き地や路傍などには帰化植物や牧草などが増加の傾向にあります。

植物リスト 12-12

写真 フランスギク、セイヨウミヤコグサ、エゾノコンギク、キクイモ、
ノイバラ、オオマツヨイグサ、ハルザキヤマガラシ、ヒメオドリコソウ、
メマツヨイグサ

[シダ植物]

ワラビ科 ワラビ
オシダ科 クサソテツ

[種子植物]

<裸子植物>

イチョウ科 イチョウ

<被子植物> 双子葉植物 離弁花類

クルミ科 カシグルミ
ヤナギ科 シダレヤナギ
ブナ科 クリ
ニレ科 ハルニレ
タデ科 ミズヒキ、オオイヌタデ、イヌタデ、イシミカワ、ミゾソバ
 オオイタドリ、エゾノギシギシ

スベリヒユ科 スベリヒユ
ナデシコ科 ヒロハマンテマ
ヒユ科 アオゲイトウ
ケシ科 クサノオウ
アブラナ科 ハルザキヤマガラシ、カキネガラシ
バラ科 キンミズヒキ、エゾノミツモトソウ、ノイバラ、ナワシロイチゴ
マメ科 エゾヤマハギ、セイヨウミヤコグサ、ムラサキウマゴヤシ、
 シロバナシナガワハギ、ニセアカシヤ、ムラサキツメクサ、
 シロツメクサ、ヒロハクサフジ

カタバミ科 カタバミ
フウロソウ科 ゲンノショウコ
ブドウ科 ノブドウ
グミ科 トウグミ
アカバナ科 ヤナギラン、アカバナ、メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ

<被子植物> 双子葉植物 合弁花類

カキノキ科 ヤマガキ
ガガイモ科 ガガイモ
ヒルガオ科 ヒロハヒルガオ、ヒルガオ
ムラサキ科 ヒレハリソウ
シソ科 ナギナタコウジュ、カキドウシ、オドリコソウ、
 ヒメオドリコソウ、ハッカ
ナス科 オオマルバノホロシ、イヌホオズキ

ゴマノハグサ科 ホソバウンラン
ノウゼンカズラ科 キササゲ
キク科 セイヨウノコギリソウ、エゾヨモギ、エゾノコンギク、
 エゾゴマナ、アメリカセンダングサ、フランスギク、
 エゾノキツネアザミ、タカアザミ、アメリカオニアザミ、
 ヒメムカシヨモギ、ヨツバヒヨドリ、キクイモ、
 タンポポモドキ、アキノノゲシ、トゲチシャ、イヌカミツレ、
 アキタブキ、キヌガサギク、ハナガサギク、ノボロギク、
 セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、コガネギク、
 オニノゲシ、ハチジョウナ、ノゲシ、ヒメジョオン、
 セイヨウタンポポ

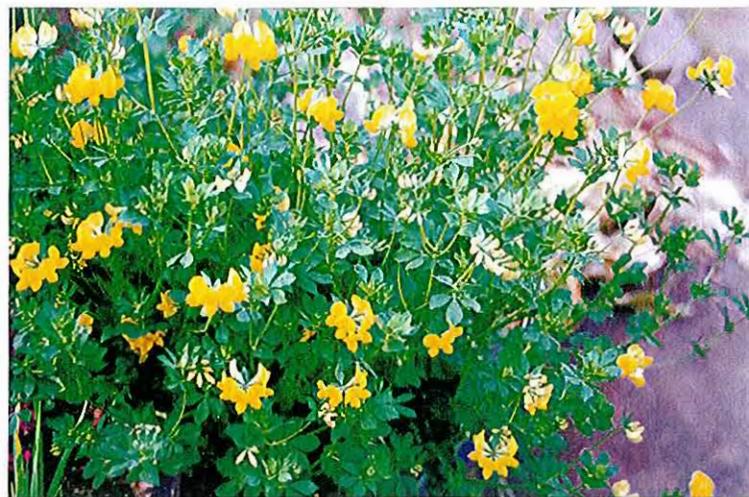
<被子植物> 単子葉植物

ユリ科 ヤブカンゾウ
ツユクサ科 ツユクサ
イネ科 アキノエノコログサ
カヤツリグサ科 ヤラメスゲ
ラン科 ネジバナ

IV - (4) 住 宅 地 の 植 物



フランスギク



セイヨウミヤコグサ



エゾノコンギク



キクイモ



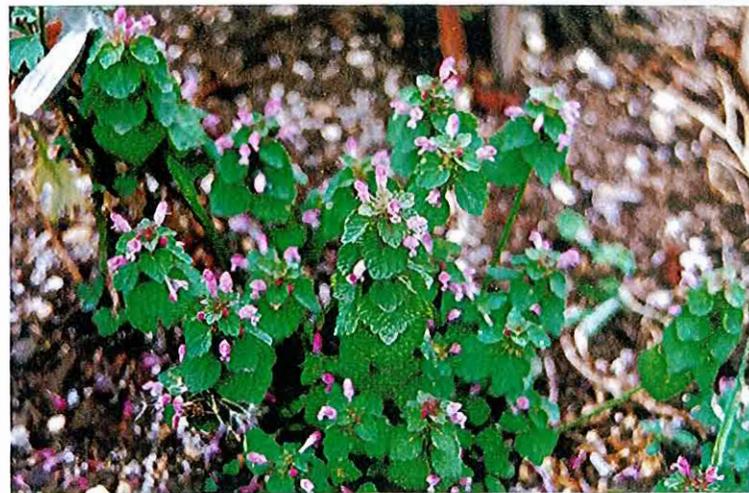
ノイバラ



オオマツヨイグサ



ハルザキヤマガラシ



ヒメオドリコソウ



メマツヨイグサ

《植物リスト》

○植物リストは阿部義孝、瀬野一郎、松崎幸恵、与那覇モト子の今までの調査資料による。不完全なリストの地域は追跡調査し、追って資料を差し替えたい。

○科の配列は「日本の野性植物」（平凡社）によった。

○参考文献

「日本の野性植物」 平凡社

「札幌の植物」 原 松次

「植物目録」 環境庁自然保護局編

《写真》

○写真撮影 阿部義孝

○写真の掲載にあたっては、他の調査区域と重複せず、その区域を特徴づける植物を選考した。